

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/002883

International filing date: 23 February 2005 (23.02.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-324511
Filing date: 09 November 2004 (09.11.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 14 April 2005 (14.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

24.02.2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 1 1 月 9 日
Date of Application:

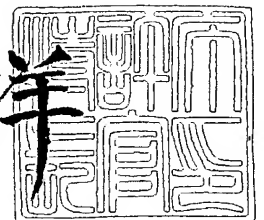
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 3 2 4 5 1 1
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 3 2 4 5 1 1]

出 願 人 独 立 行 政 法 人 科 学 技 術 振 興 機 構
Applicant(s):

2 0 0 5 年 3 月 3 1 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川 洋



【書類名】 特許願
【整理番号】 TKP000606
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A01K 73/04
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県横須賀市西浦賀町 5 - 5 - 1 8
 【氏名】 内田 圭一
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都江東区東砂 1 - 3 - 2 4 - 3 0 6
 【氏名】 宮本 佳則
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県横浜市港南区笹下 7 - 2 7 - 3 3
 【氏名】 柿原 利治
【特許出願人】
 【識別番号】 503360115
 【氏名又は名称】 独立行政法人科学技術振興機構
 【代表者】 沖村 憲樹
【代理人】
 【識別番号】 100090402
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 窪田 法明
【先の出願に基づく優先権主張】
 【出願番号】 特願2004- 55828
 【出願日】 平成16年 3月 1日
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 007559
 【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

G P S で位置情報を該位置情報を求めた時点の時刻情報との関連で求めるステップ 1 と、識別情報を有する識別標識を各々取り付けた複数の漁具の該識別標識から識別情報を該識別情報を求めた時点の時刻情報との関連で求めるステップ 2 と、該位置情報及び該位置情報を求めた時点の時刻情報と、該識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報を基に、同一時刻情報の位置情報及び識別情報を求めるステップ 3 と、引き揚げた該漁具中の漁獲物の数を計数して漁獲数情報を該漁獲数情報を求めた漁具の識別標識の識別情報との関連で求めるステップ 4 と、前記同一時刻情報の位置情報及び識別情報と、前記漁獲数情報及び該漁獲数情報を求めた漁具の識別標識の識別情報を基に、同一識別情報の位置情報と漁獲数情報を求めるステップ 5 とを備えたことを特徴とする漁業資源調査方法。

【請求項 2】

海底に設置されていた複数の漁具を船上に順次引き揚げて該複数の漁具の該識別標識から前記識別情報を求めることを特徴とする請求項 1 に記載の漁業資源調査方法。

【請求項 3】

海中に投入する前の複数の漁具の識別標識から前記識別情報を求めることを特徴とする請求項 1 に記載の漁業資源調査方法。

【請求項 4】

海中に投入する前に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報と、船上に引き揚げた後に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報とから該漁具の設置時間を求めることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の漁業資源調査方法。

【請求項 5】

位置情報を求める G P S 装置と、時刻情報を出力する時刻装置と、複数の漁具と、該複数の漁具に各々取り付けられている複数の識別標識と、該識別標識の識別情報を読み取る標識読取装置と、該漁具の中に入っていた漁獲物の数を計数する漁獲物カウンタと、該 G P S 装置、該時刻装置、該標識読取装置及び該漁獲物カウンタによって求められた情報を処理するコンピュータと、該コンピュータによって得られた情報を出力する出力装置とを備え、該コンピュータは、該標識読取装置によって求められた識別情報を該時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶する漁具情報記憶部と、該漁獲物カウンタによって求められた漁獲数情報を該時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶する漁獲数情報記憶部と、該 G P S 装置によって求められた位置情報を該時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶する位置情報記憶部と、該漁具情報記憶部の識別情報及び時刻情報と、漁獲数情報記憶部の漁獲数情報及び時刻情報から、該漁具の識別情報及び漁獲数情報を求める漁獲数情報演算部と、該漁獲数情報演算部によって求められた該漁具の識別情報及び漁獲数情報を記憶する漁獲数情報記憶部と、該位置情報記憶部に記憶されている位置情報及び時刻情報と、該漁具情報記憶部に記憶されている識別情報及び時刻情報から該漁具の識別情報及び位置情報を求める位置情報演算部と、位置情報演算部によって求められた該漁具の識別情報及び位置情報を記憶する位置情報記憶部と、該漁獲数情報記憶部に記憶されている該漁具の識別情報及び漁獲数情報と、位置情報記憶部に記憶されている該漁具の識別情報及び漁獲数情報から、漁場の位置と漁獲数との関係情報を求める漁業資源分布情報演算部と、漁業資源分布情報演算部によって求められた漁場の位置と漁獲数との関係情報を記憶する漁業資源分布情報記憶部とを備えたことを特徴とする漁業資源調査装置。

【請求項 6】

前記漁具情報記憶部が、引き揚げられた前記漁具の識別標識を前記標識読取装置で読んで得られた識別情報を前記時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶させる引揚漁具情報記憶部から構成されていることを特徴とする請求項 5 に記載の漁業資源調査装置。

【請求項 7】

前記漁具情報記憶部が、海中に投入する前の複数の漁具の識別標識を前記標識読取装置で読んで得られた識別情報を前記時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶させる

投入漁具情報記憶部と、引き揚げられた前記漁具の識別標識を前記標識読取装置で読んで得られた識別情報を前記時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶させる引揚漁具情報記憶部とから構成されていることを特徴とする請求項 5 に記載の漁業資源調査装置。

【請求項 8】

海中に投入する前に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報と、船上に引き揚げた後に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報とから識別情報が共通な時刻情報の差を取って該漁具の設置時間情報を求め、該設置時間情報を識別情報との関連で漁業資源分布情報記憶部に記憶させる設置時間情報演算部を備えていることを特徴とする請求項 6 又は 7 に記載の漁業資源調査装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】漁業資源調査方法とその装置

【技術分野】

【0001】

本発明は海底で生活している漁業資源に対する漁獲努力量の配置（個々の漁具の配置）とその漁具ごとの漁獲数を簡単且つ自動的に調査することができる漁業資源調査方法とその装置に関する。ここでいう漁業資源調査とは、資源回復を目指し、資源を持続的に利用する事を目指した資源管理型漁業に必要な情報を調査する事である。

【背景技術】

【0002】

近年の水産業界では、適切な管理下における資源の持続的な利用を目指した漁業（資源管理型漁業）が求められている。このような資源管理型漁業を推進する上で欠かせないのが、減少傾向にある資源量の推定やその資源に対して過剰となっている漁獲努力量等の正確な把握と管理である。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

現在、これらの基礎データを得る為の調査には、漁業者の協力はもちろんの事、調査員等の人の手による作業が大きな割合を占めている。このような調査は、年間を通して連続的かつ継続的に行うことが望ましいが、人件費や傭船費などを考慮すると限界がある。

【0004】

本発明は、近年急速に小型化・低価格化が進んでいるＩＣタグとＧＰＳ（全天候型衛星測位システム）を組み合わせたシステムを開発し導入することで、これまで人の力に頼ることの多かった漁業現場での調査を自動化し、これらの諸問題の解決と精度の向上を図る漁業資源調査方法とその装置を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明に係る漁業資源調査方法は、ＧＰＳで位置情報を該位置情報を求めた時点の時刻情報との関連で求めるステップ１と、識別情報を有する識別標識を各々取り付けられた複数の漁具の該識別標識から識別情報を該識別情報を求めた時点の時刻情報との関連で求めるステップ２と、該位置情報及び該位置情報を求めた時点の時刻情報と、該識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報を基に、同一時刻情報の位置情報及び識別情報を求めるステップ３と、引き揚げた該漁具中の漁獲物の数を計数して漁獲数情報を該漁獲数情報を求めた漁具の識別標識の識別情報との関連で求めるステップ４と、前記同一時刻情報の位置情報及び識別情報と、前記漁獲数情報及び該漁獲数情報を求めた漁具の識別標識の識別情報を基に、同一識別情報の位置情報と漁獲数情報を求めるステップ５とを備えたことを特徴とする。

【0006】

ステップ１において、所在時刻情報は人工衛星から送られてくる時刻情報を受信装置で受信して出力される時刻情報でもよいし、コンピュータに内蔵されている時刻装置から出力される時刻情報でもよいし、時刻放送を受信装置で受信して出力される時刻情報でもよいし、通常の時計を用いて出力される時刻情報でもよいが、精度の点では人工衛星から送られてくる時刻情報を受信装置で受信して出力される時刻情報が好ましい。

【0007】

ステップ２において使用される漁具は、アナゴ漁用の筒、たこ漁用の壺、かに漁用のカゴ、エビ漁用のカゴ等、一本の幹縄に複数の漁具を着ける延縄式漁具が適している。漁具に取り付ける識別標識としてはバーコード等を使用してもよいが、耐久性、識別情報の読み取り易さ、蓄積される情報量の点でＩＣタグが好ましい。

【0008】

ステップ2において、海中に投入する前の複数の漁具の識別標識から前記識別情報を求めるようにしてもよい。この場合は、ステップ3において、時刻情報が一致する識別情報と位置情報をもって同一の漁具の識別情報と設置位置情報であるとする。

【0009】

また、ステップ2において、海底に設置されていた複数の漁具を船上に順次引き揚げて該複数の漁具の該識別標識から前記識別情報を求めるようにしてもよい。

【0010】

このようにした場合は、ステップ3において所定の時間差範囲内で時刻が一致する識別情報と漁獲数情報をもって同一の漁具の識別情報と漁獲数情報であるとする。所定の時間差は、引き揚げられた漁具の識別標識が該標識読取装置で読み取られ、その後、該漁具が該漁獲物カウンタまで移動し、漁獲数が計数されるまでに要する時間によって生ずるものである。

【0011】

ステップ5において、識別情報が一致する設置位置情報と漁獲数情報をもって同一の漁具の設置位置情報と漁獲数情報であるとする。

【0012】

この漁業資源調査方法は、海中に投入する前に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報と、船上に引き揚げた後に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報とから該漁具の設置時間を求めるようにしてもよい。

【0013】

また、本発明に係る漁業資源調査装置は、位置情報を求めるGPS装置と、時刻情報を出力する時刻装置と、複数の漁具と、該複数の漁具に各々取り付けられている複数の識別標識と、該識別標識の識別情報を読み取る標識読取装置と、該漁具の中に入っていた漁獲物の数を計数する漁獲物カウンタと、該GPS装置、該時刻装置、該標識読取装置及び該漁獲物カウンタによって求められた情報を処理するコンピュータと、該コンピュータによって得られた情報を出力する出力装置とを備え、該コンピュータは、該標識読取装置によって求められた識別情報を該時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶する漁具情報記憶部と、該漁獲物カウンタによって求められた漁獲数情報を該時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶する漁獲数情報記憶部と、該GPS装置によって求められた位置情報を該時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶する位置情報記憶部と、該漁具情報記憶部の識別情報及び時刻情報と、漁獲数情報記憶部の漁獲数情報及び時刻情報から、該漁具の識別情報及び漁獲数情報を求める漁獲数情報演算部と、該漁獲数情報演算部によって求められた該漁具の識別情報及び漁獲数情報を記憶する漁獲数情報記憶部と、該位置情報記憶部に記憶されている位置情報及び時刻情報と、該漁具情報記憶部に記憶されている識別情報及び時刻情報から該漁具の識別情報及び位置情報を求める位置情報演算部と、位置情報演算部によって求められた該漁具の識別情報及び位置情報を記憶する位置情報記憶部と、該漁獲数情報記憶部に記憶されている該漁具の識別情報及び漁獲数情報と、位置情報記憶部に記憶されている該漁具の識別情報及び漁獲数情報から、漁場の位置と漁獲数との関係情報を求める漁業資源分布情報演算部と、漁業資源分布情報演算部によって求められた漁場の位置と漁獲数との関係情報を記憶する漁業資源分布情報記憶部とを備えたことを特徴とするものである。

【0014】

ここで、時刻装置は人工衛星から送られてくる時刻情報を受信装置で受信して出力する方式のものでもよいし、コンピュータに内蔵されている時刻装置でもよいし、時刻放送を受信装置で受信して時刻情報を出力する方式のものでもよいし、通常の時計装置でもよいが、精度の点では人工衛星から送られてくる時刻情報を受信装置で受信して時刻情報を出力する方式のものが好ましい。

【0015】

この発明で使用する漁具としては、アナゴ漁用の筒、たこ漁用の壺、かに漁用のカゴ、

エビ漁用のカゴ等、一本の幹縄に複数の漁具を着ける延縄式漁具が適している。

【0016】

漁具に取り付ける識別標識としてはバーコード等を使用してもよいが、耐久性、識別情報の読み取り易さ、蓄積される情報量の点で I C タグが好ましい。

【0017】

出力装置としては、C R T、液晶等のモニタ、プリンタを使用することができる。

【0018】

漁具位置情報演算部では、時刻情報が一致する識別情報と位置情報を選択し、識別情報と位置情報を漁具位置情報記憶部に送っている。

【0019】

漁獲数情報演算部では、所定の時間差範囲内で時刻が一致する識別情報と漁獲数情報を選択し、漁獲数情報記憶部に送っている。

【0020】

所定の時間差は、引き揚げられた漁具の識別標識が該標識読取装置で読み取られ、その後、該漁具が該漁獲物カウンタまで移動し、漁獲数が計数されるまでに要する時間によって生ずるものである。

【0021】

漁業資源分布情報演算部では、識別情報が一致する設置位置情報と漁獲数情報を選択し、漁業資源分布情報記憶部へ送っている。

【0022】

前記漁具情報記憶部は、引き揚げられた前記漁具の識別標識を前記標識読取装置で読んで得られた識別情報を前記時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶させる引揚漁具情報記憶部により構成してもよい。

【0023】

また、前記漁具情報記憶部は、海中に投入する前の複数の漁具の識別標識を前記標識読取装置で読んで得られた識別情報を前記時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶させる投入漁具情報記憶部と、引き揚げられた前記漁具の識別標識を前記標識読取装置で読んで得られた識別情報を前記時刻装置から出力された時刻情報との関連で記憶させる引揚漁具情報記憶部とから構成してもよい。

【0024】

この漁業資源調査装置は、海中に投入する前に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報と、船上に引き揚げた後に求めた漁具の識別標識の識別情報及び該識別情報を求めた時点の時刻情報とから識別情報が共通な時刻情報の差を取って該漁具の設置時間情報を求め、該設置時間情報を識別情報との関連で漁業資源分布情報記憶部に記憶させる設置時間情報演算部を備えていてもよい。

【発明の効果】

【0025】

本発明の漁業資源調査方法とその装置によれば、海底に棲む漁業資源の調査を自動的に行うことができるので、漁業従事者に大きな負担をかけることなく、海底に棲む漁業資源の生息位置と生息量を容易且つ詳細に調査することができる。

【0026】

また、本発明の漁業資源調査方法とその装置によれば、個々の漁具の位置と個々の漁具に対する漁獲量が詳細に把握でき、海底に棲む漁業資源の生息分布と生息量を詳細に調査することができるので、海底に棲む漁業資源が多い場所に少ない漁獲努力量を適切に投入することで、必要な水揚げを確保するなど、この情報を利用して海底に棲む漁業資源を適切に管理することができる。

【0027】

また、本発明の漁業資源調査方法とその装置によれば、個々の漁具の位置と個々の漁具に対する漁獲量が詳細に把握でき、海底に棲む漁業資源の生息分布と生息量を詳細に調査することができ、この情報を利用すれば少ない漁具で短時間に所望量の漁業資源を捕獲す

ることができるので、漁業従事者の労働負担や投資負担を減らすことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0028】

図1は本発明に係る漁業資源調査装置の実施例1の構成を示す説明図である。

【0029】

本発明に係る漁業資源調査装置は、同図に示すように、船の位置情報を求めるGPS装置10と、時刻情報を出力する時刻装置12と、異なる識別情報が付与されている複数のICタグ（識別標識）14と、複数のICタグ14が各別に取り付けられている複数の漁具16と、漁具16を引き揚げた後に漁具16のICタグ14に付与されている識別情報を読み取るタグリーダ（標識読取装置）18と、漁具16を引き揚げた後に漁具16の中に入っていた漁獲物の数を計数する漁獲物カウンタ20と、GPS装置10、時刻装置12、タグリーダ18及び漁獲物カウンタ20によって求められた情報を処理するコンピュータ22と、コンピュータ22によって得られた情報を出力する出力装置24とからなる。

【0030】

ここで、時刻装置12は、人工衛星から送られてくる時刻情報を受信装置で受信して出力する方式のものでもよいし、コンピュータ22に内蔵されているものでもよいし、時刻放送を受信装置で受信して時刻情報を出力する方式のものでもよいし、通常の時計でもよいが、時刻情報の精度の点では人工衛星から送られてくる時刻情報を受信装置で受信して時刻情報を出力する方式のものが好ましい。

【0031】

また、この発明で使用する漁具16としては、アナゴ漁用の筒、たこ漁用の壺、かに漁用のカゴ、エビ漁用のカゴ等、一本の幹縄に複数の漁具を着ける延縄式漁具が適している。

【0032】

また、漁具16に取り付ける識別標識としてはバーコード等を使用してもよいが、耐久性、識別情報の読み取り易さ、蓄積される情報量等の点でICタグ14が好ましい。

【0033】

また、出力装置24としては、CRT、液晶等のモニタ、プリンタを使用することができる。

【0034】

コンピュータ22は、位置情報記憶部26と、引揚漁具情報記憶部28と、漁獲数情報記憶部30と、漁具位置情報演算部32と、漁具位置情報記憶部34と、漁獲数情報演算部36と、漁獲数情報記憶部38と、漁業資源分布情報演算部40と、漁業資源分布情報記憶部42とからなる。

【0035】

ここで、位置情報記憶部26は、GPS装置10によって求められた位置情報を時刻装置12から出力された時刻情報との関連で記憶するように構成されている。

【0036】

また、引揚漁具情報記憶部28は、漁具16を引き揚げた後にタグリーダ18によって求められた識別情報を時刻装置12から出力された時刻情報との関連で記憶するように構成されている。

【0037】

また、漁獲数情報記憶部30は、漁獲物カウンタ20によって求められた漁獲数情報を時刻装置12から出力された時刻情報との関連で記憶するように構成されている。

【0038】

また、漁具位置情報演算部32は、位置情報記憶部26に記憶されている位置情報及び時刻情報と、引揚漁具情報記憶部28に記憶されている識別情報及び時刻情報から、時刻情報が一致する識別情報と位置情報を選択し、これを同一の漁具16の識別情報及び位置情報として出力するように構成されている。

【0 0 3 9】

また、漁具位置情報記憶部 3 4 は、漁具位置情報演算部 3 2 から出力された同一漁具 1 6 の識別情報及び位置情報を記憶するように構成されている。

【0 0 4 0】

また、漁獲数情報演算部 3 6 は、引揚漁具情報記憶部 2 8 の識別情報及び時刻情報と、漁獲数情報記憶部 3 0 の漁獲数情報及び時刻情報から、所定の時間差範囲内で時刻が一致する識別情報と漁獲数情報を選択し、これを同一漁具 1 6 の識別情報及び漁獲数情報として出力するように構成されている。

【0 0 4 1】

所定の時間差は、引き揚げられた漁具 1 6 の I C タグ 1 4 がタグリーダ 1 8 で読み取られ、その後、漁具 1 6 が漁獲物カウンタ 2 0 まで移動し、漁獲数が漁獲物カウンタ 2 0 によって計数されるまでに要する時間によって生ずるものである。

【0 0 4 2】

また、漁獲数情報記憶部 3 8 は、漁獲数情報演算部 3 6 によって求められた同一漁具 1 6 の識別情報及び漁獲数情報を記憶するように構成されている。

【0 0 4 3】

また、漁業資源分布情報演算部 4 0 は、漁具位置情報記憶部 3 4 に記憶されている漁具 1 6 の識別情報及び位置情報と、漁獲数情報記憶部 3 8 に記憶されている漁具 1 6 の識別情報及び漁獲数情報とから、識別情報が一致する位置情報及び漁獲数情報を選択し、これを同一漁具 1 6 の位置情報及び漁獲数情報として出力するように構成されている。

【0 0 4 4】

また、漁業資源分布情報記憶部 4 2 は、漁業資源分布情報演算部 4 0 によって求められた同一漁具 1 6 の位置情報及び漁獲数情報を記憶するように構成されている。

【0 0 4 5】

次に、この漁業資源調査装置の動作について説明する。

【0 0 4 6】

まず、GPS 装置 1 0 で船の位置情報を時刻装置 1 2 から出力されている時刻情報との関連で経時的に求め、この位置情報及び時刻情報を位置情報記憶部 2 6 に記憶させる。

【0 0 4 7】

次に、I C タグ 1 4 を設けた複数の漁具 1 6 を海中に投入設置する。

【0 0 4 8】

次に、漁具 1 6 を投入して所定時間経過した後、海中に投入設置されていた複数の漁具 1 6 を船上に順次引き揚げる。

【0 0 4 9】

次に、複数の漁具 1 6 の I C タグ 1 4 をタグリーダ 1 8 で各々読み、得られた識別情報を時刻装置 1 2 から出力されている時刻情報との関連で引揚漁具情報記憶部 2 8 に記憶させる。

【0 0 5 0】

次に、漁具位置情報演算部 3 2 において、位置情報記憶部 2 6 に記憶されていた位置情報及び時刻情報と、引揚漁具情報記憶部 2 8 に記憶されていた識別情報及び時刻情報とから、時刻情報が一致する位置情報及び識別情報を選択し、この時刻情報が一致する位置情報及び識別情報をもって海中に設置されていた同一の漁具 1 6 の位置情報及び識別情報として出力し、これを漁具位置情報記憶部 3 4 に記憶させる。

【0 0 5 1】

次に、漁具 1 6 が捕らえた漁獲物の数を漁獲物カウンタ 2 0 で計数し、得られた漁獲数情報を時刻装置 1 2 から出力されている時刻情報との関連で漁獲数情報記憶部 3 0 に記憶させる。

【0 0 5 2】

次に、漁獲数情報演算部 3 6 において、引揚漁具情報記憶部 2 8 に記憶されていた識別情報及び時刻情報と、漁獲数情報記憶部 3 0 に記憶されていた漁獲数情報及び時刻情報と

から、所定の時間差範囲内で時刻が一致する識別情報及び漁獲数情報を選択し、この識別情報及び漁獲数情報をもって同一漁具 16 の識別情報及び漁獲数情報として出力し、これを漁獲数情報記憶部 38 に記憶させる。

【0053】

ここで、所定の時間差は、引き揚げられた漁具 16 の IC タグ 14 がタグリーダ 18 で読み取られ、その後、漁具 16 が漁獲物カウンタ 20 まで移動し、漁獲数が計数されるまでに要する時間によって生ずるものである。

【0054】

次に、漁業資源分布情報演算部 40 において、漁具位置情報記憶部 34 に記憶されていた位置情報及び識別情報と、漁獲数情報記憶部 38 に記憶されていた漁獲数情報及び識別情報とから、識別情報が一致する位置情報及び漁獲数情報を選択し、この位置情報及び漁獲物数をもって同一漁具 16 の位置情報及び漁獲物数として出力し、これを漁業資源分布情報記憶部 42 に記憶させる。

【0055】

漁業資源分布情報記憶部 42 に記憶されている位置情報及び漁獲数情報は出力装置 24 を介して適宜取り出す。

【0056】

図 2 は本発明に係る漁業資源調査装置の実施例 2 の構成を示す説明図である。実施例 2 の基本的な構成は実施例 1 と同一であるが、下記の点において実施例 1 と相違している。

【0057】

すなわち、タグリーダ 18 は投入前の漁具 16 の標識も読み取るように構成され、コンピュータ 22 は、漁具 16 を投入する前にタグリーダ 18 によって求められた識別情報を時刻装置 12 から出力された時刻情報との関連で記憶する投入漁具情報記憶部 44 を備えている。

【0058】

そして、漁具位置情報演算部 32 においては、位置情報記憶部 26 に記憶されていた位置情報及び時刻情報と、投入漁具情報記憶部 44 に記憶されていた識別情報及び時刻情報とから、時刻情報が一致する識別情報及び位置情報を求め、これを同一漁具 16 の識別情報と位置情報として出力するように構成されている。

【0059】

図 3 は本発明に係る漁業資源調査装置の実施例 3 の構成を示す説明図である。実施例 3 の基本的な構成は実施例 1 と同一であるが、下記の点において実施例 1 と相違している。

【0060】

すなわち、タグリーダ 18 は投入前の漁具 16 の標識も読み取るように構成され、コンピュータ 22 は、投入漁具の識別情報及び時刻情報を記憶する投入漁具情報記憶部 44 と、漁具 16 の設置時間を求める設置時間情報演算部 46 を備えている。

【0061】

そして、投入漁具情報記憶部 44 においては、漁具 16 を投入する前にタグリーダ 18 によって求められた識別情報を時刻装置 12 から出力された時刻情報との関連で記憶している。

【0062】

また、設置時間情報演算部 46 においては、投入漁具情報記憶部 44 の識別情報及び時刻情報と、引揚漁具情報記憶部 28 の識別情報及び時刻情報とから識別情報を共通にする時刻の差から設置時間情報を求め、この設置時間情報を漁業資源分布情報記憶部 42 に送って記憶させている。

【0063】

図 4 は本発明に係る漁業資源調査装置の実施例 4 の構成を示す説明図である。実施例 4 の基本的な構成は実施例 2 と同一であるが、設置時間情報演算部を備えている点において実施例 2 と相違している。

【0064】

そして、設置時間情報演算部 46 においては、投入漁具情報記憶部 44 に記憶されている識別情報及び時刻情報と、引揚漁具情報記憶部 28 に記憶されている識別情報及び時刻情報とから識別情報を共通にする時刻の差から設置時間情報を求め、この設置時間情報を漁業資源分布情報記憶部 42 に送って記憶させている。

【0065】

尚、本発明の漁業資源調査方法とその装置は、上記した実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論である。

【0066】

また、本発明の漁業資源調査方法とその装置は、上述したものに加え、漁具にデータロガーを付けて海中の環境（水温、溶存酸素、塩分、濁度、深度等）を漁具（漁獲物）との関係で直接的かつ経時的に計測させるようにしてもよい。

【0067】

この場合は、全部又は一部の漁具（例：あなご筒、タコ壺等）にデータロガーを付けて、漁具を海中に投入し、海中でデータロガーに環境データ（水温、溶存酸素、塩分、濁度、深度等）を経時的に計測させ、得られたデータはデータロガーの記録部に記録させる。

【0068】

次に、漁具を引き上げ、ICタグリーダを用いて当該漁具に付けたICタグの個別識別情報を読み取り、この個別識別情報と、位置情報記憶部（GPS装置から得た位置とその位置に居た時間を記憶しているPCの記憶部、図1～4の位置情報記憶部26に相当）の全位置情報とから漁具の個別位置情報を求める。また、データ読取器を用いて当該漁具のデータロガーから個別の環境データを読み取る。

【0069】

そして、これらの個別位置情報と個別環境データから特定位置における経時的な環境情報を求め、多数の位置における環境情報と漁獲数情報を集約し、漁業資源の分布と海中環境との関係を求める。

【0070】

なお、データロガーは環境データを計測するセンサー部と、時計機能と、センサー部によって得られた環境データを時計機能を利用して経時的に記録する記録部とを備えている。また、漁具に付けたICタグの識別情報と各データロガーは予め関連付けしておく。すなわち、各データロガーはどの識別情報を備えたICタグが付けられた漁具に付けられているかを予め関連付けして、各データロガーを識別させておく。

【0071】

環境データ中の漁具投入点は、漁具を海中に投入すると、データロガーが計測している温度が海水の温度によって大きく変化するので、温度が大きく変化した部分として認識することができる。また、漁具の投入時刻と投入場所はGPS装置からの情報によって知ることができる。

【0072】

本発明では、海中の環境（水温、溶存酸素、塩分、濁度、深度等）を漁具（漁獲物）との関係で直接的かつ経時的に計測させることができるので、海中に生きる魚等とその生活環境との直接的な関係や、漁業資源の分布と海中環境との直接的な関係を知ることができる、従って、漁獲努力量の適正管理に資することができるという効果がある。

【産業上の利用可能性】

【0073】

本発明の漁業資源調査方法とその装置は、海底で生活している漁業資源の位置と数を漁業者に負担をかけることなく簡単且つ自動的に調査することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【0074】

【図1】 本発明に係る漁業資源調査装置の実施例1の構成を示す説明図である。

【図2】 本発明に係る漁業資源調査装置の実施例2の構成を示す説明図である。

【図 3】 本発明に係る漁業資源調査装置の実施例 3 の構成を示す説明図である。

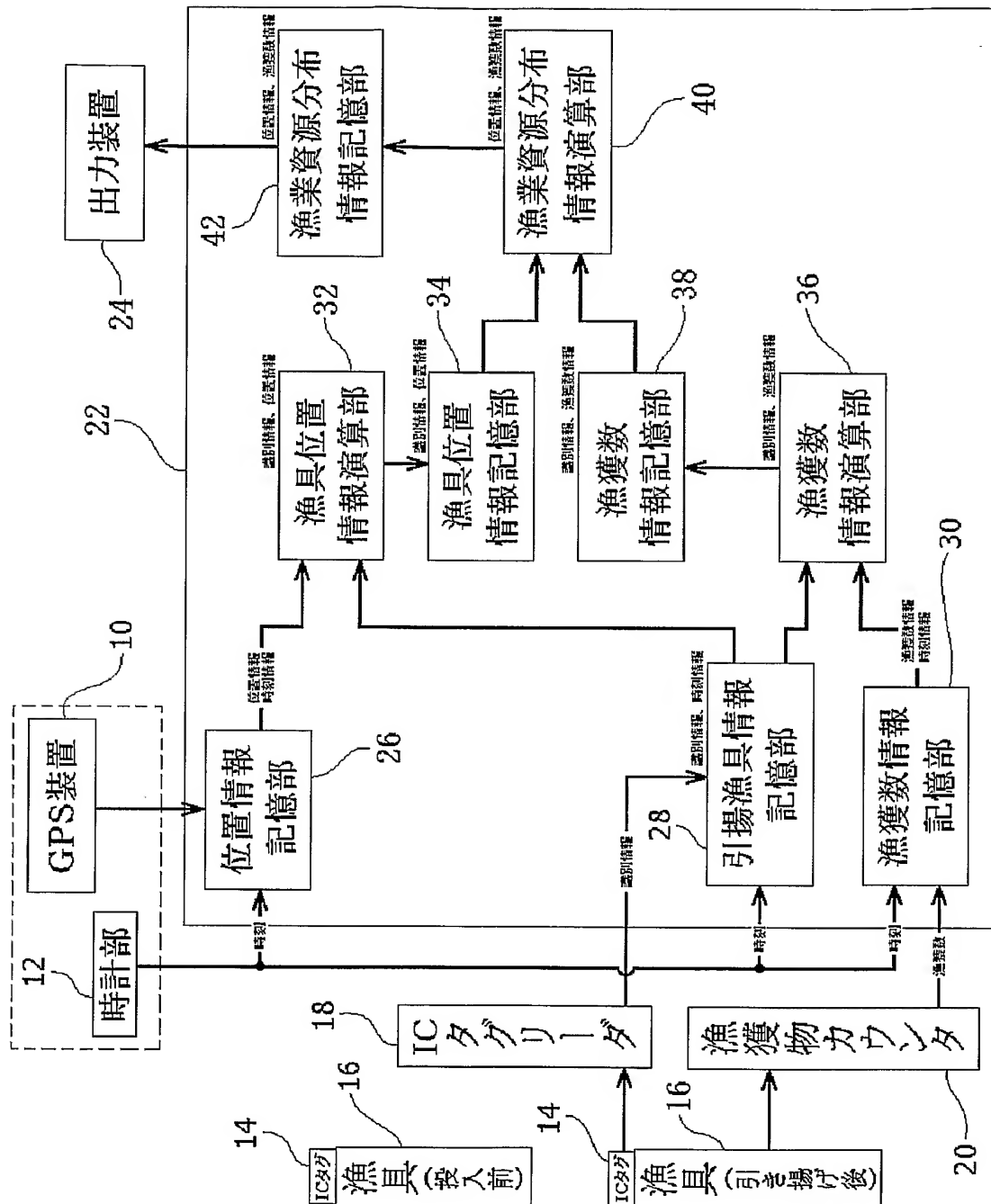
【図 4】 本発明に係る漁業資源調査装置の実施例 4 の構成を示す説明図である。

【符号の説明】

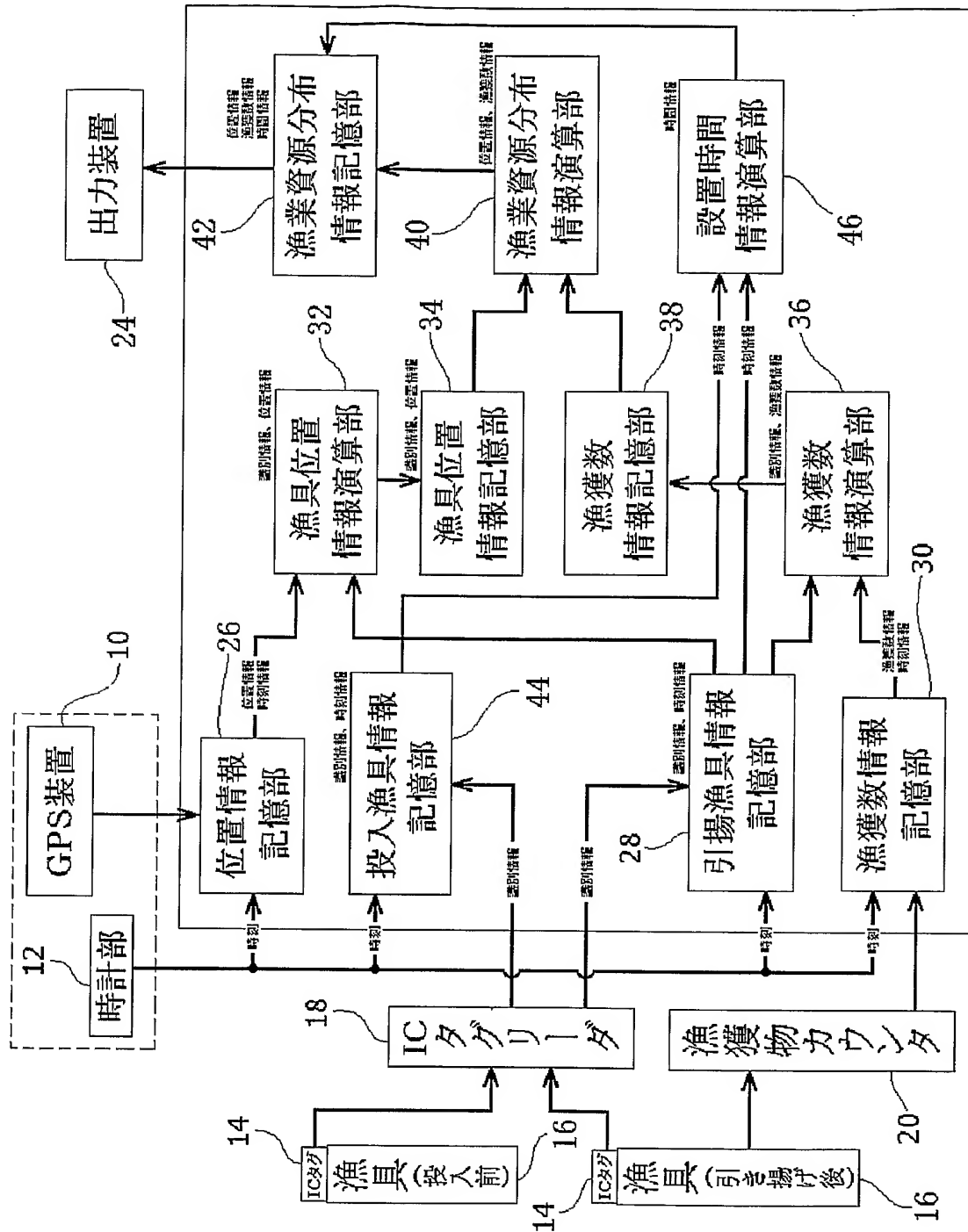
【 0 0 7 5 】

- 1 0 装置
- 1 2 時刻装置
- 1 4 タグ
- 1 6 漁具
- 1 8 タグリーダー
- 2 0 漁獲物カウンタ
- 2 2 コンピュータ
- 2 4 出力装置
- 2 6 位置情報記憶部
- 2 8 引揚漁具情報記憶部
- 3 0 漁獲数情報記憶部
- 3 2 漁具位置情報演算部
- 3 4 漁具位置情報記憶部
- 3 6 漁獲数情報演算部
- 3 8 漁獲数情報記憶部
- 4 0 漁業資源分布情報演算部
- 4 2 漁業資源分布情報記憶部
- 4 4 投入漁具情報記憶部
- 4 6 設置時間情報演算部

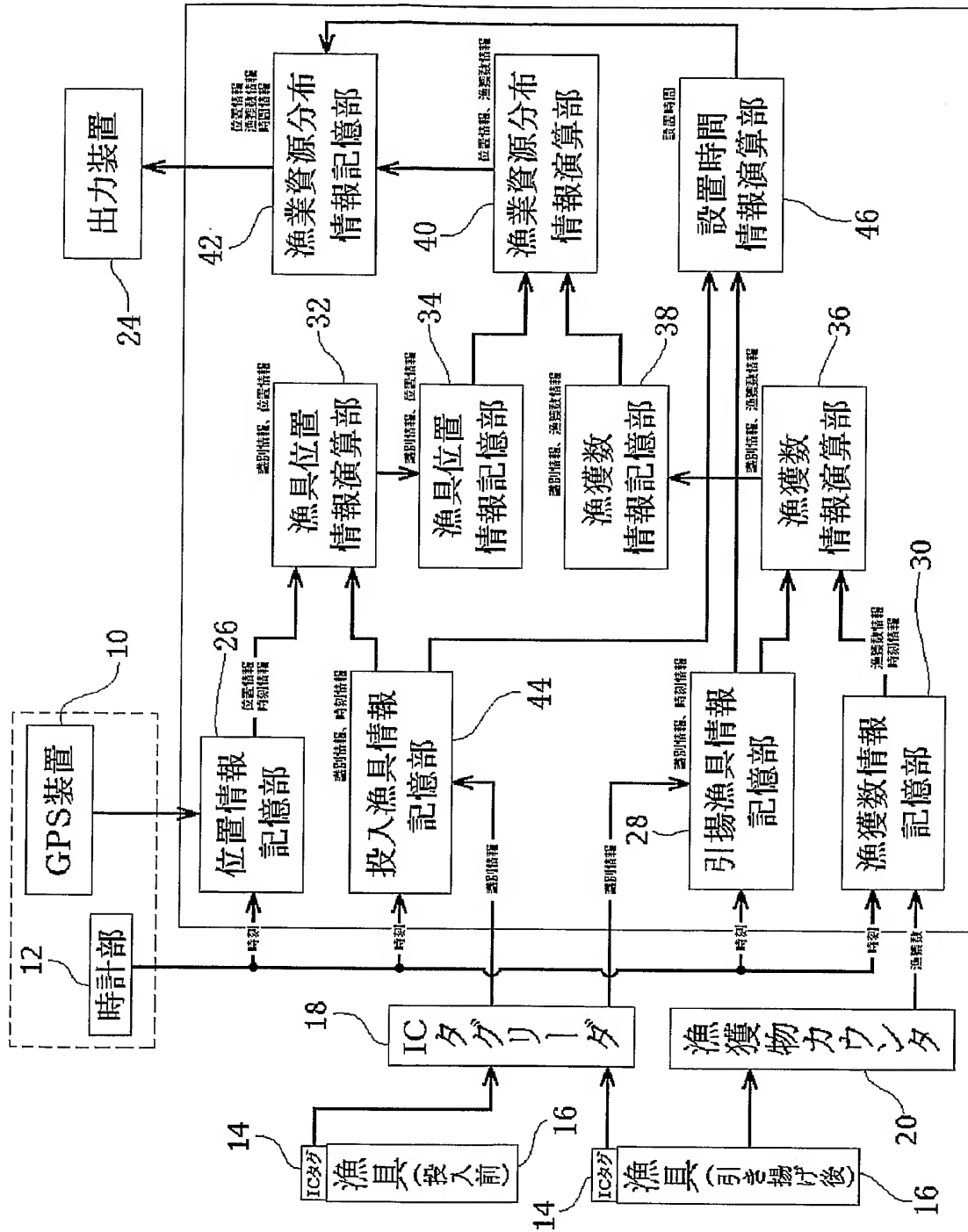
【書類名】 図面
【図 1】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 海底における漁業資源の調査を自動化して、調査における人的、経済的負担を軽減するとともに、調査の精度を向上させる漁業資源調査方法とその装置を提供する。

【解決手段】 海底の漁業資源を調査するための各漁具に I C タグを取り付けておき、漁業資源を各漁具で捕獲して資源調査をする各過程において、各漁具の I C タグをタグリーダーで読んで各漁具を識別し、G P S で位置情報を求め、漁獲数カウンターで各漁具の漁獲数を計数し、これらの結果をコンピュータで処理して海底における漁業資源の分布状況を自動的に求める。

【選択図】

図 1

特願 2 0 0 4 - 3 2 4 5 1 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 0 3 3 6 0 1 1 5]

1. 変更年月日 2 0 0 4 年 4 月 1 日

[変更理由] 名称変更

住 所 埼玉県川口市本町 4 丁目 1 番 8 号

氏 名 独立行政法人科学技術振興機構